

北魚沼あぜ道情報

2011年
8月号
JA北魚沼

異常気象



梅雨明けは平年より 3日早かったんですが・・・。

『やまない雨はない』と信じて過ごした7月29日の夜。不安な時間に耐えられず、未明の3時ごろ集落の集会場に皆が集まり、異常事態に備えました。父ちゃんの無事を祈りながら朝を迎え外を見てビックリ！目の前を流れるのは一体何？周りの木や草花を巻き込みものすごい勢いで泥水が流れていきます。こは道路だよね・・・。

まさに豪雨。数年に1度程度しか発生しないような短時間の大雨を観測した時に発表される「記録的短時間大雨情報」が計30回出されたと報道されました。

山と川に囲まれた、この恵まれた自然も時には凶器となり刃を向けます。

当JA管内でも地域により被害状況に雲泥の差があり、孤立してしまう地域もあれば、全く被害のない地域もあります。JAの施設も、事務所の中まで土石流が流れ込んだ施設もありましたが、大事なお米を保管する米倉



炎天下の中の「あぜ道研修会」。
この日は今年一番の暑さでした。

庫は被害もなく無事でした。この異常事態に改めて思うのが津波の被害にあわれた方々のことです。

本当に一瞬のことだったのだろうと、改めて胸が痛みます。被災された方々の心の傷が一刻も早く癒されることを祈っています。

皆様に心配をおかけしましたが、管内もだいぶ復旧作業が進み、川の水も透明さを取り戻してきています。勢いよく流れ込む水に歯を食いしばっているようにも見えた稲たちも、勝ち誇ったような凛とした姿で生き生きとしています。豪雨から守られた稲穂の赤ちゃんも、実りの秋を迎えるため元気に成長しています。

このように計り知れない、また、経験したことのない異常気象の中、「世界最高水準のおいしいコシヒカリ」を目指し始まった23年産米。毎朝田んぼに行つては稲の様子を伺い、痛い腰を伸ばして空の様子もうかがいます。そして繊細な水管理や猛暑の中の草刈り・溝切り作業。栄養を与えすぎないように「穂肥え」を撒くタイミングや稲の成長に合わせた今後の管理について、日差しより熱い眼差しの中行われるあぜ道研修会。

こうして手間暇と愛情をかけて育てた、年に一度しか実らない「魚沼産コシヒカリ」。食べて頂く皆さんの「今年もおいしいよ。」の一言で全ての苦勞が報われます。もうすぐ豊作祈願の祭囃子が聞こえてきます。

今年の太鼓の音は色々な思いが込められ、より一層この地に響く事でしょう。

(JA北魚沼 佐藤)

田んぼと新人の成長日記

梅雨明けの高温で稲たちは少々伸びすぎな位達まじい伸びっぷりを見せています。

さて、この時期になると稲はいよいよ実りに向けて準備を始めます。7月下旬、茎をカッターナイフで縦に割ってみると、中から「米粒大」の「穂」の赤ちゃんが出てきました。見た目は真っ白な筆先のようにですが、長い茎の中を上って外に出る頃には、ちゃんといつももの穂の姿に成長しているから不思議なものです。8月中旬に穂が出始めると、先端から次々に花が咲いていきます。ちよつと地味な花ですが、短い期間しか見られないので興味のある方は是非魚沼へお越し下さい。(野村)



一粒万倍日



カレンダーを眺めていると、月に数回ある一粒万倍日。一粒の籾が一万倍にもなるという意味で、何事始めるにも良い日とされています。では、実際に一粒の籾は一万粒にもなるのでしょうか？

籾一粒からの収量は栽培方法によって大きく異なりますが、田植え機で1箇所に4本(4粒)植えつける場合だと約三百粒。手植えで一箇所に一本(一粒)だと千粒以上になるとのこと。一万粒までとはいかなくとも、こんなに沢山の実を結ぶのですね。